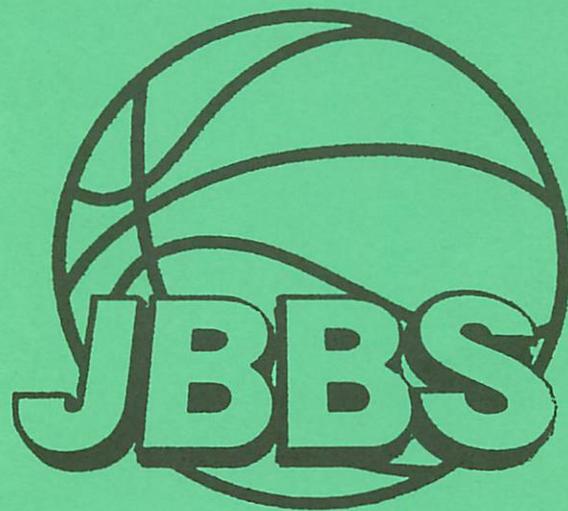


バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

No:54



2012年5月

NPO法人 日本バスケットボール振興会



センター街メイン通りは、

BASKETBALL STREET

となりました。

渋谷センター街では、スポーツ振興と青少年の健全育成を基本理念に、国際色・ファッション性を考え合わせ、通りの名を「バスケットボールストリート」と命名。

5年、10年とかけてこのバスケットボールストリート、通称「バスケ通り」を定着させていきたいと考えています。



バスケットボール ストリート



渋谷センター街

目 次

- 理事会と定期総会を開催 3
- ハヤブサジャパン女子日本代表強化再開 15
ロンドン・オリンピック世界最終予選に向けて
- JBL最終章 20
トヨタ自動車二冠の頂点へ
- bjリーグ全日程終了 23
プレーオフ優勝は沖縄「琉球ゴールデンキングス」
- 会員だより
関東実連競技委員会同窓会 黒川敏雄 . . . 25
スポーツの輪 上谷富彦 . . . 27
バスケットボールと私 大内民雄 . . . 29
- 3団体が一堂へ集結 31
日本協会、JBL、日本実連が事務所移転
- 訃報・追悼文 32
- 事務局だより 34
- プラザ こぼればなし 35

ハヤブサジャパン女子日本代表強化再開

ロンドン・オリンピック世界最終予選に向けて

[編集部]

女子日本代表はロンドン・オリンピック出場へ向かって去る4月3日から強化合宿を再開した。昨年長崎県で開催されたアジア選手権大会でオリンピック出場権を獲得できなかった代表チームは、主要スタッフも入れ替りオリンピック世界最終予選に向けて強化中だ。

代表チーム12名の選手選考に対して当初20名の候補選手を選び、数次にわたる合宿を経て選手が絞り込まれるが、何としても世界最終予選でオリンピック出場の切符を手にもってほしいと願う。

主なチームスタッフ

役職	氏名	所属
チームリーダー	高橋 雅弘	日本協会
ヘッドコーチ	内海 知秀	日本協会
コーチ	丁 海鎰	トヨタ自動車アンテロープス
コーチ	小嶋 裕二三	デンソーアイリス

上記のうちコーチの丁(チョン)さんは、トヨタ自動車のヘッドコーチを務める韓国の方で、女子日本代表チームのコーチを韓国の方が務めるのは初めてでその手腕が期待される。

代表候補選手

選手名	P	身長 c m	体重 kg	年齢 歳	所属
矢野 良子	S F	178	73	33	トヨタ自動車アンテロープス
山田 久美子	C	192	116	33	J Xサンフラワーズ
名木 洋子	S F	175	67	29	富士通レッドウェーブ
橋本 和子	G	163	53	29	三菱電機コアラーズ
田中 利佳	S G	173	65	29	J Xサンフラワーズ
大神 雄子	P G	170	63	29	J Xサンフラワーズ
久手堅 笑美	P G	165	63	27	トヨタ自動車アンテロープス
天津 希	C	190	78	27	トヨタ自動車アンテロープス
藤吉 佐緒里	S F	178	67	25	シャンソン化粧品シャンソンVマジック
藤原 有沙	S G	175	67	24	デンソーアイリス
吉田 亜沙美	P G	165	64	24	J Xサンフラワーズ
川原 麻耶	S G	167	55	24	トヨタ自動車アンテロープス
高橋 礼華	S F	177	65	24	J Xサンフラワーズ
大庭 久美子	S G	169	59	23	デンソーアイリス

高田 真希	C	183	74	22	デンソーアイリス
木林 稚栄	P F	184	67	22	J Xサンフラワーズ
間宮 佑圭	P F	183	72	22	J Xサンフラワーズ
渡嘉敷 来夢	C	191	78	20	J Xサンフラワーズ
篠原 恵	C	184	74	20	富士通レッドウェーブ
長岡 萌映子	P F	180	69	18	富士通レッドウェーブ
平均		177	69	25	

*所属年齢は2012年4月22日現在

6月25日から7月1日までトルコのアンカラで開催されるロンドン・オリンピック世界最終予選に出場する12チームは下記の通り。

アフリカ大陸

マリ (F I B Aランキング19位)

モザンビーク (F I B Aランキング37位)

アメリカ大陸

アルゼンチン (F I B Aランキング12位)

カナダ (F I B Aランキング11位)

プエルトリコ (F I B Aランキング24位)

アジア大陸

韓国 (F I B Aランキング9位)

日本 (F I B Aランキング15位)

ヨーロッパ大陸

トルコ (F I B Aランキング21位)

フランス (F I B Aランキング8位)

チェコ (F I B Aランキング4位)

クロアチア (F I B Aランキング31位)

オセアニア大陸

ニュージーランド (F I B Aランキング16位)

大会の競技方式は出場12チームを3チームずつの4グループに分け、1回戦総当たりを行って各グループ上位2チームが準々決勝へ進出する。準々決勝は下記の対戦を行い勝ったチーム4チームにオリンピック出場権が与えられる。

ゲーム13 Aグループ1位 VS Bグループ2位

ゲーム14 Bグループ1位 VS Aグループ2位

ゲーム15 Cグループ1位 VS Dグループ2位

ゲーム16 Dグループ1位 VS Cグループ2位

上記で敗れた4チームは準決勝に回り下記の対戦を行う。

ゲーム13の敗者 VS ゲーム15の敗者

ゲーム14の敗者 VS ゲーム16の敗者

準決勝で勝ったチームが決勝戦に進出し勝ったチームにオリンピック出場権が与えられる。

A・B・C・D各グループの組合せは次のように決められている。

- Aグループ トルコ、日本、プエルトリコ
Bグループ チェコ、アルゼンチン、ニュージーランド
Cグループ クロアチア、韓国、モザンビーク
Dグループ フランス、カナダ、マリ

日本が予選リーグで対戦するチームはF I B Aランキングで見ると若干下位であるが、トルコは開催国でありヨーロッパ選手権第2位のチーム、アウェイで厳しい戦いとなるのは必定、仮に予選で1位になったとしても準々決勝で対戦するであろうチームは日本よりランキングが上位のチームとなり、困難な戦いが予想される。

しかしながら女子のチームについてはいずこのチームにおいても好不調の波があり、好調のコンディションで臨めば決して怖い相手ではないだろう。日本がこれまで培ってきた緻密で速い攻めと全員が一丸になって戦う体制ができればオリンピック出場も夢ではない。

日本のバスケットボールファンも代表チームに対して、ロンドン・オリンピック出場の夢が叶うよう熱い熱い声援を送りたいものだ。

4月3日から強化合宿を再開した女子日本代表チームは、4月23日に渡米してアメリカで合宿を行うとともに、WNBAフェニックスマーキュリー・チームとの合同練習や強化試合を行う。5月に入ってからロサンゼルススパークス・チームなどと対戦し、最後にアメリカ代表チームと対戦して帰国する。

帰国後は5月19日に栃木県南体育館、5月21日・22日代々木第二体育館で開催されるヨーロッパの強豪スロバキア(F I B Aランキング36位)との国際親善試合に臨み、その後すぐに開催国トルコで開かれる国際招待試合に参加する。この国際招待試合ではオリンピック出場を争うベラルーシやモンテネグロと対戦し更にはトルコとも前哨戦として対戦する。

以上数次海外遠征や強化を経て、6月上旬には最終調整となる第6次合宿を行った上でトルコへと旅立つ。

オリンピック最終予選では、Aグループでトルコとプエルトリコに勝利して予選ラウンドを第1位で通過すれば次の準々決勝でBグループ第2位チームの対戦となるので、ここで早々にオリンピック出場を決めてくれることを期待する。

女子日本代表を率いる内海ヘッドコーチは強化合宿にあたり次のように述べている。『“GO FOR OLYMPIC”「オリンピック出場へのひたむきな努力」のスローガンのもと、ロンドン・オリンピックへ向けて強化合宿が始まりました。

日本代表として、(1)立ち向かう力、(2)乗り越える力、(3)日の丸の誇りという、3つの心構えを持って世界へ臨んでいきます。3ヶ月足らずの短い期間ですが中身の濃い合宿を行う必要があります。4月下旬からのアメリカ遠征は、非常にプレッシャーのある力強いアメリカ選手と対戦し、国際親善試合やトルコ遠征でのヨーロッパ各国との対戦では、本番を見据えてチームを作っていきます。選手一人ひとりが先に掲げた3つの心構えをしっかりと持って強化に取り組んでもらいたい。良い結果を残してロンドン・オリンピック出場をご報告できるよう頑張りたいと思います。』

国際親善試合兼世界最終予選壮行試合で好結果

5月19日、21日、22日に行われた国際親善試合兼壮行試合では、195cm以上のプレーヤー3名を要するスロバキアと接戦を演じながらも3連勝し、身長の高い相手に対する対応も慣れてきた感があり今後に期待したい。

5月19日 栃木大会

チーム	1 P	2 P	3 P	4 P	合計	勝敗
日本代表	17	14	16	18	65	○
スロバキア	23	9	11	19	62	●

立ち上がり日本はターンオーバーが多く、相手のインサイド攻撃に苦しみ第1ピリオド7分で7対18と大量リードされる。タイムアウトの後日本は#8 田中の連続3Pシュートで点差を詰める。

日本は第2ピリオドに入ると#6 間宮の連続得点などで追い上げ、残り2分から投入した#7 矢野や#5 高田らの連続得点により一気に点差を詰めて前半で31対32と1点差に詰め寄る。

第3ピリオド、日本はアウトサイドからの得点で追い上げるがスロバキアもインサイド攻撃で対抗し接戦が続く。しかし残り1分に#7 矢野がバスケットカウントを決めて逆転に成功。その後第4ピリオドでは日本が流れを掴み、残り4分には61対51と10点のリードを奪いスロバキアの追い上げをかわして3点差で逃げ切った。

5月21日 東京大会

チーム	1 P	2 P	3 P	4 P	合計	勝敗
日本代表	18	23	22	17	80	○
スロバキア	16	23	14	21	74	●

第1ピリオド、スロバキアはインサイド攻撃や3Pシュートで先制するが、日本も負けじと#6 間宮の果敢な攻めや#8 田中の連続3Pシュートで対抗し日本の2点リードで終わる。第2ピリオドに入っても日本#18 川原や#22 長岡らの3Pシュートに対してスロバキアはインサイドから攻めて一進一退の攻防は変わらず、日本の2点リードで前半終了。

第3ピリオド立ち上がりスロバキアが逆転するが、日本は#8 田中の3Pシュートや#7 矢野の4本の3Pシュートでペースを掴みリードを10点に広げる。

第4ピリオドに入っても日本の勢いは止まらず、#8 田中や#7 矢野が小気味よく3Pシュートを決めてリードを広げる。スロバキアも3Pシュートなどで追い上げるが及ばず結局6点差で日本が2連勝した。

日本はこの試合で#7 矢野、#8 田中、#18 川原の3選手で12本の3Pシュートを決め、アウトサイドからの攻撃が成功した。

5月22日 東京大会

チーム	1 P	2 P	3 P	4 P	延長	合計	勝敗
日本代表	8	14	16	18	10	66	○
スロバキア	16	8	15	17	8	64	●

第1ピリオド日本はターンオーバーやイージーミスが続いて攻撃のリズムが悪くなり、スロバキアにインサイドを中心とした得点を許して8点のビハインドとなる。

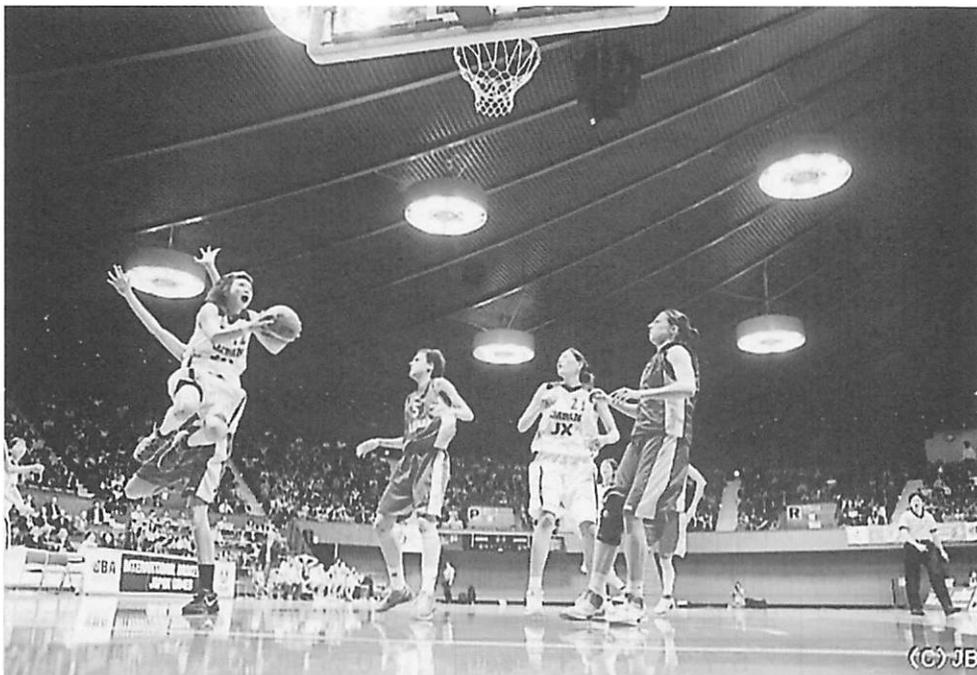
第2ピリオドに入ると日本は激しいディフェンスによって相手ミスを誘い、#21 篠原や#17 藤原の連続得点などで追い上げ22対24とようやく追いついたが、シュートミスもあってロースコアに終わる。

第3ピリオド開始早々に#12 吉田が得点して同点に追いつき、更に#5 高田の得点で始めてリードする。しかし日本は#6 間宮が4つ目、#5 高田が3つ目のファウルを犯して交代すると、再びスロバキアにリードされる。その後は一進一退の攻防となり38対39の1点差でこのピリオドを終わる。

第4ピリオドではお互いにシュートを入れ合いになってリードが激しく入れ替わる。中盤スロバキアに3Pシュートと速攻により4点差をつけられてタイムアウト。持ちなおした日本は速い攻撃で残り3分に52対51と逆転に成功する。その後は1点の差が入れ替わるが日本は残り13秒で54対56と2点のビハインドとなる。しかし終了間際に日本#12 吉田が1対1からレイアップシュートを決めて同点に追いつき延長戦へ突入。

延長では#18 川原の3Pシュートや#21 篠原のバスケットカウントで残り3分余りで3点リードするが、その後スロバキアに入れ返えされて一時は逆転される。終盤同点に追いついた日本は、残り14秒に再び#12 吉田が1対1からレイアップシュートを決めて66対64の1ゴール差で劇的な勝利を飾った。

代々木第二体育館で東京大会を観戦した。ほぼ満員に近い観客が入って会場を盛り上げ、栃木の第1戦から3連勝となってファンには見ごたえがある壮行試合となった。スロバキアチームは日本の激しいディフェンスにてこずってシュートミスを繰り返し、70点前後の得点しかあげられず、日本代表の厳しいディフェンスに拍手をおくりたい。



日本代表#12 吉田のドライブイン 写真提供 JBA

JBL 最終章

トヨタ自動車二冠の頂点へ

[編集部]

昨年10月に開幕したJBL2011～2012シーズンは、8チームによる6回戦総当りのレギュラーシーズンを終え、上位4チームがプレーオフへ進出した。

<レギュラーシーズン順位>

順位	チーム名	勝率（勝敗）
1	アイシンシーホース	74%（31勝11敗）
2	トヨタ自動車アルバルク	69%（29勝13敗）
3	日立サンロッカーズ	57%（24勝18敗）
4	パナソニックトライアンズ	57%（24勝18敗）
5	レバンガ北海道	52%（22勝20敗）
6	リンク栃木ブレックス	43%（18勝24敗）
7	三菱電機ダイヤモンドドルフィンズ	29%（12勝30敗）
8	東芝ブレイブサンダース	19%（8勝34敗）

レギュラーシーズンベスト4による4月7日からのセミファイナル、4月18日からのファイナルでは熱戦が繰り広げられシーズンを閉幕した。

セミファイナルへ進出したのはアイシンシーホース、トヨタ自動車アルバルク、日立サンロッカーズ、パナソニックトライアンズで、アイシン対パナソニック、トヨタ自動車対日立が4月7日から対戦した。結果は下記の通りで、アイシンシーホースとパナソニックは1勝1敗の5分となって3回戦が行なわれたが経験豊富なアイシンが勝利、トヨタ自動車アルバルクは日立に連勝してファイナルへ進出した。

<セミファイナル結果>

アイシンシーホース ○ 79-69 ● パナソニックトライアンズ
● 78-88 ○
○ 76-64 ●

パナソニックにとっては惜しいセミファイナルとなったが、問題は第1ゲームであろう。いい立ち上がりで前半37対41とリードし、第3ピリオド途中まで優勢のまま試合を進めたが第3ピリオドの最後に逆転され、その後はずるずると後退してしまった。パナソニックの清水ヘッドコーチは「うちのミスから相手にチャンスを与えてしまった」と悔やむ。

シュート成功確率（各チームとも1試合平均値）

チーム	2P確率	3P確率	フリースロー確率
アイシン	57%	35%	70%
パナソニック	40%	41%	83%

アイシンの2P確率57%はかなりの高確率、対するパナソニックの40%という数字

はシュートミスを物語っている。ディフェンスの状況にも左右されるのだろうが、2 Pエリアからのシュート確率は最低でも50%以上ないと勝利には至らないだろう。

トヨタ自動車アルバルク ○ 64-56 ● 日立サンロッカーズ
○ 74-71 ●

2試合とも日立のディフェンスの甘さと、肝心なときに得点に至らない状況が目立った。スタンディングにあるように日立は2 Pシュートの確率とフリースローではトヨタを上回っているのに勝てなかった。その差は数字が示しているように3 Pシュートである。日立は今期から3ポイントラインが50cmリングから遠くなったせいではあるまいが、外郭プレーヤーに対するディフェンスがオフェンスプレーヤーとの距離を開けすぎているため、容易に相手3ポイントシュートを許してしまったことが敗因のひとつだろう。

シュート成功確率（各チームとも1試合平均値）

チーム	2 P 確率	3 P 確率	フリースロー確率
トヨタ自動車	34%	40%	73%
日立	40%	32%	84%

1試合平均の2 Pシュート成功数は、トヨタ自動車16本に対して日立16本、3 Pシュート成功数はトヨタ自動車8本に対して日立は7本、シュート成功数の数字で見ると日立が極端に劣っているわけではないが、その確率やディフェンスのわずかな差が勝敗を分けていると云える。

<ファイナル結果>

4月18日から代々木第二体育館で開催されたファイナルでは第1戦でアイシンが逆転勝ちを納めたが第2戦以降はトヨタ自動車のペースとなって3試合連続でトヨタ自動車が勝利し、3勝1敗でトヨタ自動車アルバルクが優勝に輝いた。トヨタ自動車は5年ぶりのJBL優勝で正月の全日本総合選手権に続いて二冠を達成した。

アイシンシーホース ○ 73-70 ● トヨタ自動車アルバルク
● 70-79 ○
● 61-69 ○
● 64-83 ○

ファイナルのシュート成功確率（各チームとも1試合平均値）

チーム	2 P 確率	3 P 確率	フリースロー確率
トヨタ自動車	47%	36%	65%
アイシン	39%	32%	76%

両チーム4ゲームを戦ったファイナルでは、セミファイナルとは違って2 P、3 Pシュート確率の良かったチームが勝利している。2 Pシュートの成功数でトヨタ自動車の合計86本に対してアイシンは69本、3 Pではトヨタ自動車28本に対してアイシンは23本であり、成功数が多いチームの優勝は順当と云ったところ。

特に勝利したトヨタのディフェンスは厳しいものがあつた。全員バスケットを徹底し交代したプレーヤー全員が必死でディフェンスに行く。このディフェンスに対してアイシンは徐々に疲れが出てきてシュートミスにつながり、得点が伸びなかった。対するトヨタ自動車はめまぐるしく選手を交代することによって、試合の主導権を握り短期決戦で全員バスケットを貫いた作戦勝ちともいえよう。

<観戦記>

セミファイナル、ファイナル戦を取材班が観戦してみると、男子日本代表がアジアでなかなか勝てない訳が出ているように思えた。全てのチームとは云わないが、ディフェンスが甘いことが挙げられる。外郭プレーヤーに対するディフェンスが甘くなる傾向があり、容易に相手に3ポイントシュートを許してしまう。3ポイントの確率がさほど高くない日本ではまだしも、アジアの強豪国と対戦した場合、この程度のディフェンスでは楽に3ポイントシュートを相手に打たれてしまうだろう。

次に得点の低さが目立つ。セミファイナル、ファイナル9試合で80点台の得点があったのは僅か2試合で、それも一方のチームだけである。日本のトップゲームとも云える試合で80点以下の得点では情けない。先にも述べたとおり男子の試合においてアウトサイドのディフェンスが甘いにも拘わらず60～70点台の低得点はいただけない。

フリースローやシュート確率の低さも気になるどころだ。それぞれの確率を表に示しておいたが、もっともっと確率を上げなければアジアをはじめとして国際的には通用しない。それにしてもフリースローはディフェンスがない状態で打つにも拘わらず確率が低いのはなぜだろう。

表の数字は外国籍選手をも含めたものであり、インサイドを中心とした外国籍選手のシュート確率は日本人選手に比べてはるかに高いし、逆に日本人選手だけのシュート確率をとってみればデータの的にも更に悪くなる。

アジアで戦う場合は日本人選手だけであり、もっとシュート確率を高いレベルにしなければ勝ち目はないだろう。アジア強豪国に比べて上背で劣る日本チームにおいてインサイド攻撃は難しい面があり、アウトサイドからの攻撃にならざるを得ないが、アウトサイドからのシュート確率が低い状況では相手ディフェンスに楽をさせることとなり、体力的にもハンデとなってしまう。

バスケットボールの試合においてはディフェンスが存在するのは当たり前であり、その内容も年々厳しいものになってきているが、それらを凌駕したうえで得点を争うのがバスケットの醍醐味なのである。

攻撃面におけるフォーメーションも大切だが、得点を競うバスケットボールの試合では何といてもシュートが入らなければ勝ちには繋がらない。

日本の男子選手においてはフリースローの確率を100%に近くにするのと、アウトサイドからのシュート確率をもっともっと上昇させることはこれから必須の課題ではあるまいか。

ファイナルではメンバー豊富なトヨタ自動車が、人海戦術で厳しいディフェンスを仕掛けてアイシンの攻撃力を止めたためロスコアに終始し、4回戦目で疲労の濃いアイシンに一方的に勝利した。この試合ではピリオド終了ブザーと同時の超ロングシュートが2回も決まるというトヨタ自動車の華麗なプレーがあったが、連戦で選手の動きが鈍くなりチームプレーによってノーマークを作って得点するというシーンがあまり見られなかった。

それにしてもJBLの試合ではシュート成功率が低い。3Pシュートはまだしも2Pシュートの成功率が50%以下というのはいただけない。男子の選手諸君はチームプレーによるシュートチャンスを作ることと、シュートの成功率をもっと上げるよう努力することを期待したい。

b j リーグ全日程終了

プレーオフ優勝は沖縄「琉球ゴールデンキングス」

[編集部]

昨年9月に開幕したb j リーグは、東西それぞれのカンファレンスに分かれてレギュラーシーズンのリーグ戦を終え、プレーオフに入り最終優勝チームは沖縄の琉球ゴールデンキングスに決定した。

レギュラーシーズンの成績は下記のとおりだが、リーグ戦ではカンファレンス間の交流戦を含めて各チームとも52ゲームを戦うと云うスケジュールだ。イースタン・カンファレンス10チーム、ウェスタン・カンファレンス9チームによるリーグ戦の結果、それぞれのカンファレンス上位4チームによるトーナメント戦でプレーオフを戦い、優勝チームを競う。

プレーオフトーナメントの1回戦は各チームとも2試合戦い、1勝1敗の場合は20分のインターバルを置いて5分ハーフの延長戦によって上位進出チームを決めるという、相当ハードな方式である。その後のセミファイナルとファイナルは、1試合で勝者を決める一発勝負方式ゆえ各チームとも全力で戦う。

<レギュラーシーズン成績>

イースタン・カンファレンス

順位	チーム	勝敗 (勝率)
1	浜松東三河フェニックス	37勝15敗 (71.2%)
2	横浜ビー・コルセアーズ	31勝21敗 (59.6%)
3	秋田ノーザンハピネッツ	28勝24敗 (53.8%)
4	新潟アルビレックス	28勝24敗 (53.8%)
5	富山グラウジーズ	25勝27敗 (48.1%)
6	仙台89ERS	25勝27敗 (48.1%)
7	岩手ビッグブルズ	19勝33敗 (36.5%)
8	信州ブレイブウォリアーズ	18勝34敗 (34.6%)
9	千葉ジェツ	18勝34敗 (34.6%)
10	埼玉ブロンコス	16勝36敗 (30.8%)

ウェスタン・カンファレンス

順位	チーム	勝敗 (勝率)
1	琉球ゴールデンキングス	39勝13敗 (75.0%)
2	大阪エベッサ	35勝17敗 (67.3%)
3	京都ハンナリーズ	34勝18敗 (65.4%)
4	滋賀レイクスターズ	33勝19敗 (63.5%)
5	ライジング福岡	33勝19敗 (63.5%)
6	島根スサノオマジック	28勝24敗 (53.8%)

7	大分ヒートデビルズ	23勝29敗 (44.2%)
8	宮崎シャイニングサンズ	22勝30敗 (42.3%)
9	高松ファイブアローズ	2勝50敗 (3.8%)

レギュラーシーズンのリーグ戦をみると、何故か高松を除いてウェスタン・カンファレンスの方が勝ち越しチームが多い。高松がシーズンを通して2勝しか挙げられず独り負けをしているようで、その分勝ち星が他のチームに献上されたかも知れない。

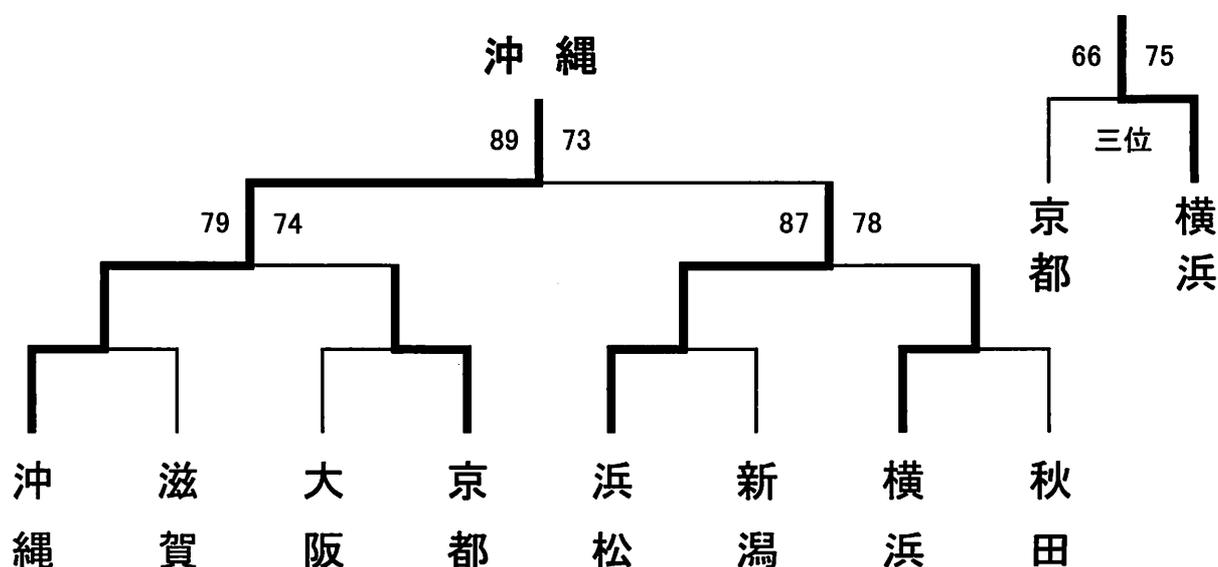
b jリーグでは、外国籍選手の出場が第2ピリオドを除いてオンザコート3名迄認められるので、外国籍選手が少なかったり出来が悪かったりすると成績は上がらない。こういった中で日本人選手も沖縄の並里選手のように頑張っている選手もいるが、どちらかというと外国籍選手の陰になってしまっていて目立った活躍ができていない。

<プレイオフセミファイナル結果>

プレイオフ1回戦は対象となるチームのレギュラーシーズン上位チームのフランチャイズで開催され、イースタン・カンファレンスでは浜松・東三河と横浜が勝ち残り、ウェスタン・カンファレンスでは沖縄と京都が勝ち残ってそれぞれセミファイナルへ進出した。

セミファイナルは5月19日に、ファイナルは20日に東京有明体育館で一万人以上の観客を集めて開催され、一発勝負の結果、浜松と沖縄がファイナルへ進み、沖縄が2年ぶりに優勝を果たした。

なかでも横浜は今シーズンからb jリーグへ参入したばかりだが、レギュラーシーズンでイースタンの第2位、セミファイナルでは浜松に敗れたものの、三位決定戦で京都を破ってプレイオフ第3位の成績となった結果は讃えられてよい。



molten[®]
For the real game



For the real game

「プレイヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」

私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに

世界に類のないボールと

スポーツエキップメント・メーカーとして

つねに完璧な製品づくりを目指しています。

本大会唯一の公式試合球

BGL7
GL7 国際公認球 検定球
貼り・天然皮革、7号球



www.molten.co.jp

株式会社 **モルテン** 東京本社 〒130-0003 東京都墨田区横川5丁目5-7

DUPER®



WE ARE A SPECIALIST IN BASKETBALL GOODS.

DUPER FIVE CO., LTD.
3-5, TATEKAWA 3-CHOME, SUMIDA-KU, TOKYO 130-0023 JAPAN
TEL. TOKYO 03(3632)7045 FAX. TOKYO 03(3632)8327
URL: <http://www.duper.co.jp> E-mail: info@duper.co.jp